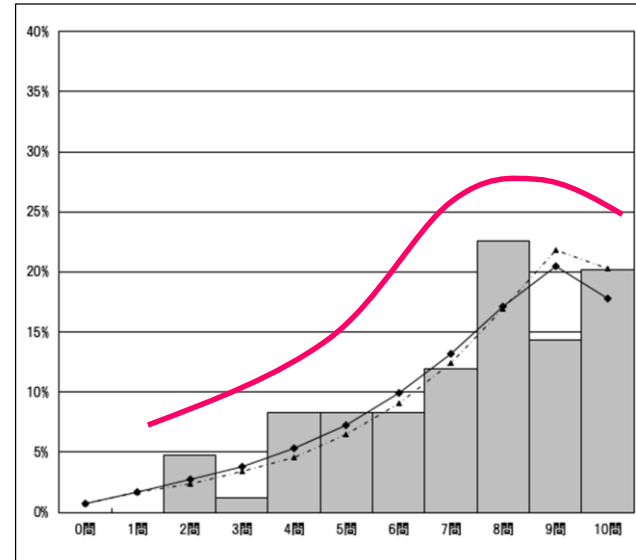
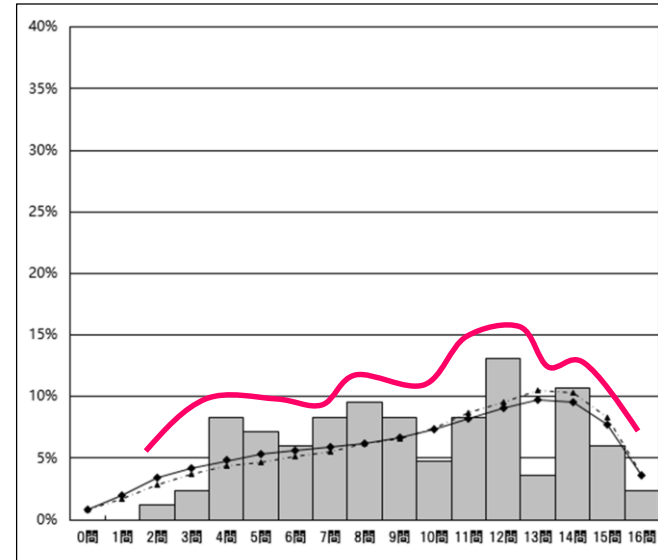


1 国語・数学の調査結果のヒストグラムから分かる特性

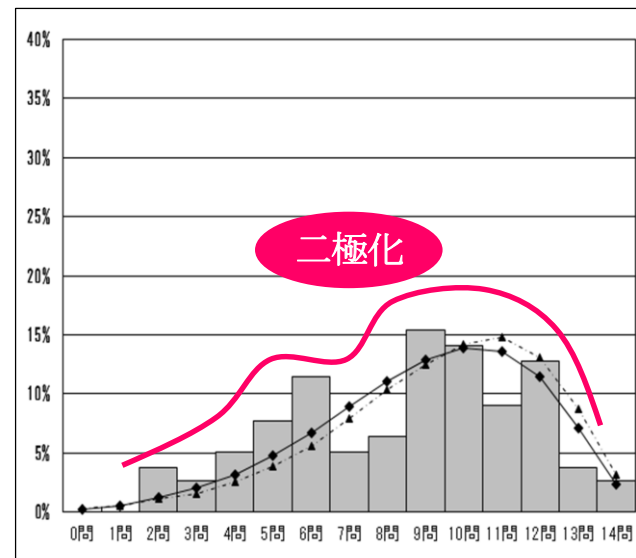
平成31年度【国語】



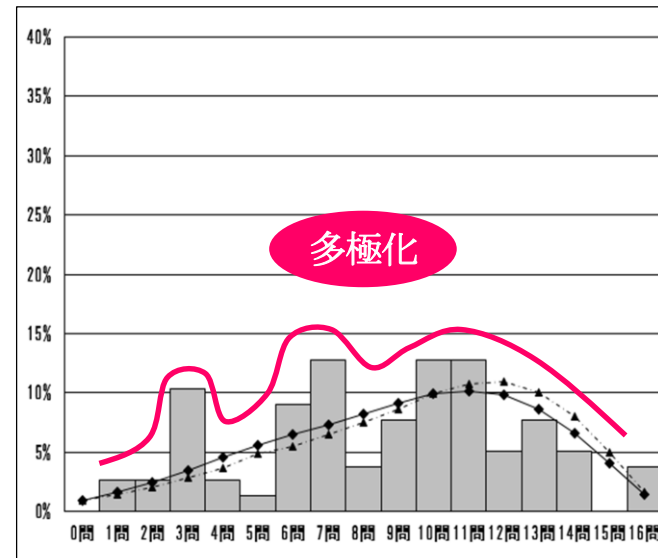
平成31年度【数学】



令和3年度【国語】

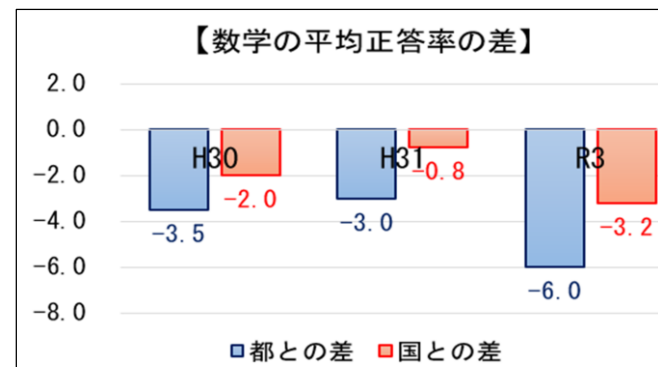
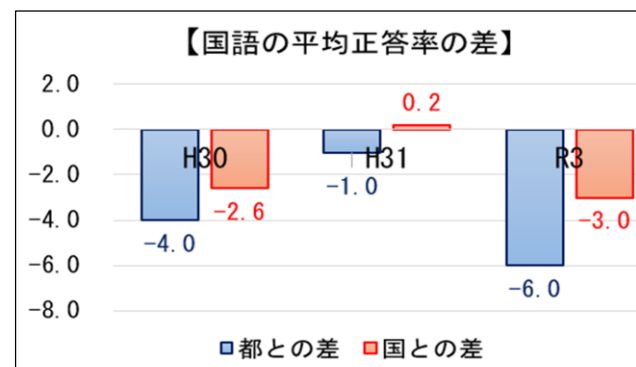


令和3年度【数学】



数学では経年で学びの習得に大きな差があり、理解の程度が小集団化して正規分布に至りません。単元ごとの理解の程度が異なることが考えられ、課題のある単元の学び直しが必要です。

2 平均正答率の経年変化



令和3年度は都・国との平均正答率の差が広がりました。これは学びの二極化・多極化の特性によるものと考えられ、生徒個々の学びのつまずきに寄り添って反復して学ぶことが必要です。

3 生徒質問紙調査の結果から分かる生徒の意識の向上

●数値は肯定的な回答(「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」)の主なもの

(1)自分にはよいところがあると思いますか。

単位:%	第五中	東京都	都との差	全国	国との差
平成30年度	71.0	78.7	▲ 7.7	78.8	▲ 7.8
平成31年度	56.7	74.1	▲ 17.4	74.1	▲ 17.4
令和3年度	73.1	76.3	▲ 3.2	76.2	▲ 3.1

(2)家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

単位:%	第五中	東京都	都との差	全国	国との差
平成30年度	50.0	51.0	▲ 1.0	52.1	▲ 2.1
平成31年度	49.4	49.6	▲ 0.2	50.4	▲ 1.0
令和3年度	65.4	62.6	+ 2.8	63.5	+ 1.9

(3)数学の勉強は好きですか。

単位:%	第五中	東京都	都との差	全国	国との差
平成30年度	59.3	57.2	+ 2.1	53.9	+ 5.4
平成31年度	54.2	59.8	▲ 5.6	57.9	▲ 3.7
令和3年度	65.4	61.3	+ 4.1	59.1	+ 6.3

(4)学校に行くのは楽しいと思いますか。

単位:%	第五中	東京都	都との差	全国	国との差
平成30年度					
平成31年度	72.3	80.6	▲ 8.3	81.9	▲ 9.6
令和3年度	89.7	80.8	+ 8.9	81.1	+ 8.6

- (1)について:各種委員会や学校行事、部活動等で生徒の活躍の場があると考えられます。
 (2)について:家庭学習記録シートの定着が学校評価アンケートの結果からも明らかになっています。
 (3)について:教科担任が生徒のつぶやきやひらめきをよくとらえていることが考えられます。
 (4)について:丁寧な生活指導が生徒の心の安定の一つの要因になっていることが考えられます。

4 今後の取組み

- 各教科で単元テストをこまめに行い、学びの定着を繰り返します。
- GIGA端末を活用して抽象的なものやことを具体化(見える化)して生徒の理解を支援します。
- 教科担任は板書とワークシートに固執せずにICT機器の活用を広げ深めます。
- 東大和GIGAタイム(仮称)を試行するパイロット校として全教職員はGIGA端末の活用の研究に努め、「一人1台コンピュータを活用できるためのミニマムスキル」を習得します。

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の成果と課題【裏面】

5 国語の主な課題(観点(は)日 5 観点)

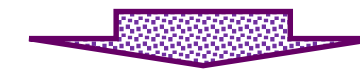
問題の概要	出題の趣旨	評価の観点	正答率(%)		
			都	本校	差分
「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の適切なものを選択する。	相手や場に応じて敬語を適切に使う。	言語についての知識・理解・技能	39.1	20.5	▲18.6
事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。	伝えたいことから相手に効果的に伝わるように書く。	書く能力	73.9	57.7	▲16.2
「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す。	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。	読む能力	74.1	60.8	▲13.3
意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。	書く能力	27.9	15.4	▲12.5
漢字「詳細」を読む。	文脈に即して漢字を正しく読む。	言語についての知識・理解・技能	90.2	80.8	▲ 9.4



- 分からない言葉や漢字を調べさせて語彙を増やすことにより表現の幅を広げます。
- 「読むこと」については図書室との連携をとって個々の生徒に適した本を選書し、読む力を習得させます。
- 「書くこと」については朝読書の中で書き写し読書も継続して様々な作品に触れさせ、書く力を習得させます。
- 「話すこと」「聞くこと」についてはG I G A端末を活用して資料を作成し、発表し合うことで習得させます。

6 数学の主な課題(観点(は)日 4 観点)

問題の概要	出題の趣旨	評価の観点	正答率(%)		
			都	本校	差分
数量の関係を一元一次方程式で表す。	具体的な場面で、式をつくらることができる。	数学的な技能	74.4	53.8	▲20.6
四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるのかを説明する。	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。	数学的な見方や考え方	34.9	23.1	▲11.8
∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く。	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。	数学的な見方や考え方	33.0	24.4	▲ 8.6
与えられた表やグラフを用いて、2分を図るために必要な砂の量を求める方法を説明する。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	数学的な見方や考え方	30.3	21.8	▲ 8.5
反復横とびの記録の中央値を求める。	与えられたデータから中央値を求めることができる。	数学的な技能	81.1	75.6	▲ 5.5



- 文章から式をつくることでは、読み取ることを苦手としていることから、読み取る必要がある設問を繰り返し復習させて基礎的な力を定着させます。
- 基礎的・基本的な学びの定着に個人差があるので、既習事項を反復して学修させて学びを定着させます。
- 途中式や思考の過程をノートに記述する習慣を身に付けさせるために思考の過程を板書するだけでなく、端末の画面出力を活用して思考のあり方を「見える化」する工夫も取り入れて生徒の思考力を高めます。